

ヨーヨー作りから“つなわたりゴマ”へ

刈谷市立慈友保育園（愛知県刈谷市）

[5 歳児]

6月の保育参観でヨーヨー作りをした。親子で試したり工夫したりしているいろいろな発想から面白い形の作品が出来たが、糸の巻き返しで戻ってくるヨーヨー本来の遊びとしての楽しさにはたどりつけなかった。その後も子どもたちは材料を変えてみたり、糸の通し方を工夫したり、友達と話し合ったりしながら繰り返し試していた。

事例1「コツがいるんだよ」

K児が“つなわたりゴマ”と称して左右の手を交互に上下に動かしている。（ペットボトルのふた2個の間に2本のモールを通し、その間に糸を通して持つ）それを見ていたI児が「おれなんか1本でもできちゃうんだから」と得意気にやって見せると、周りの子どもたちは「うお〜」と歓声をあげた。保育者も真似てやってみるがうまくいかない。I児「だめだよ、もっとこうやって動かすんだよ。これね、コツがいるんだよね〜」と自信満々。それを見ていたG児、Y児、S児も作り、「1、2、3…」と数えて競い始めた。I児は糸を短く持って素早く動かし、Y児は糸を長く持って動かすことに挑戦していた。



考察 親子で手作りしたヨーヨーは十分な楽しさを味わえなかった。その後、新たな素材としてペットボトルのフタを用意したことで、自分たちで試したり工夫したりするきっかけとなり、遊びの発見につながった。K児の発想を保育者が認めることで他児への刺激となり、「やってみたい」という意欲につながった。

事例2「一緒にひざ曲げちゃダメなんだよ」

糸の両端を持って動かす遊び“つなわたりゴマ”に興味をもち、「僕、85回もできたよ」「私は121回！」などと数もどんどん増えていった。保育者が「これ、2人でやったらどうなるかなあ？」とつぶやいてみた。

M児がT児を誘ってやり始めた。最初はうまくいくが、途中で「あれ?」「なんか変」と2人で顔を見合わせている。それを繰り返すうちに、「そうか!わかった!一緒にひざを曲げちゃダメなんだよ」「そうだよ、Mちゃんが上になったら私は下になるんだよ」とひらめき、コツをつかんだ2人は顔を見合わせて笑いながら、コマを落とさないようにして遊び出した。



考察 ヨーヨーから発展した遊びへの興味が高まり、回数を増やすごとに意欲的に挑戦していた。保育者のつぶやきによって意図的に揺さぶりをかけたことで、遊びが発展していった。M児とT児は、途中で止まってしまう時とうまく動く時を繰り返し体験することで、その違いに気付き発見の喜びにつながった。

事例3「技に挑戦 ~ やる気の気持ちが大変なんだよ ~」

2人で挑戦する遊びが広がり、糸を口でくわえたり、距離を離れたり、階段の上と下に立って傾斜をつけたり、自分たちでいろいろ考え試すようになった。

M児とA児が糸を弾き、コマを飛ばしてキャッチする遊びを思いつく。A児は糸を伝って落ちてくるコマを真剣な表情で見つめ、糸を弾くタイミングを計る。その様子をずっと見ていたN児が、落ちたコマを拾って階段の上まで運ぶ役を自らやり始め、軸の長さを綿密に調節する。挑戦し始めて10分位経った時、A児がまっすぐにコマを飛ばし、そのままコマが吸い付くように糸の上に落ちてきた。皆が息を潜めて見守る中、うまくキャッチすると「やったあ」と3人は飛び跳ねて喜んだ。見に来ていた0~1歳児たちが、「頑張れ、頑張れ〜」の声援に合わせて手をたたき姿を見て、M児は「ねえ、ねえ、Aちゃん、Nちゃん!やる気の気持ちが大変なんだよ!」と自分にも言い聞かせるように言った。



考察 失敗を繰り返した3人だったが、「あと少し頑張ればできるかもしれない」という一人ひとりの頑張りや、同じ目的をもった仲間が存在によって失敗も乗り越えられるという実感が伝わってくる。また、「やる気の気持ちが大変なんだよ」という言葉からは、更に困難に立ち向かう時、自分自身の気持ちとも向かい合い、乗り越えようとしていることが伺われる。応援に応えることや、小さい組の子どもたちに喜んでもらうことが嬉しいという思いは、思いやりの芽生えにつながり、仲間との感動体験の中で育っていくのだと思う。

みどころ

当初の目的は達成されませんでした。素材や自分達の動き、扱い方による違いに気付いて、魅力的な遊びにつながったと思われます。また、誰かの思いつきがヒントになって展開したり、友達の取り組みをよく見て取り入れたり、相互に刺激し合いながらそれぞれに目的をもった遊びへと変わっていく様子が伺えます。子ども自らが目的をもつことが、更に工夫したり困難を乗り越えたりする原動力になっています。